

中堅企業 新時代

小松電機産業

所在地 島根県八東郡八雲村東岩坂
180番地
社 長 昭夫氏
資本金 1,900万円
創業 昭和48年
従業員 33人
従事事業 5億2,000万円(昭和59年度)
主 配電盤、自動制御盤の製造、販売及び計装システムの設計、施工

島根県では数少ないベンチャー企業の一つ。配電盤、自動制御盤メーカーとして「顧客のニーズに合った製品づくり」をモットーに順調に売り上げを伸ばしている。特にテレメーター式計装システム、流量制御装置、ろ過装置電気設備、ポンプ制御盤、計装制御シ

採算よりもまず技術

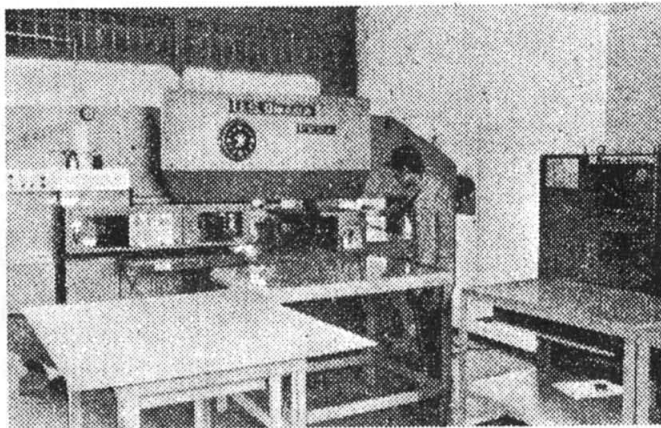
創業のきっかけは、小松社長が勤めていた佐藤造機(現在の三菱農機)が四十六年に会社更生法の

め、大手メーカーのどこにも負けませんと豪語する。

置の製造販売・代理店業務を始め、試行錯誤しながら得意先を開拓していった。「私は機械、弟は電機が専門だったので、この商売を始めたが、二人とも技術屋なので採算より得意先に喜ばれるいい製品づくりしか念頭になかった。それが今日の信用を生む結果につながったのでは」と小松社長は述懐する。

「注文があれば何にでも挑戦してみる」(小松社長) 積極姿勢で新製品開発に取り組み、官公庁需要が中心の水道関係施設のほか、民間関係では各種排水制御盤、エレベーター監視制御盤、各種冷凍機制御盤などを手がけ、多くのノウハウを蓄積していった。同社の業績が飛躍的に伸びたのは五十五年ごろから。大型シヨッ

注文生産から脱皮



最新鋭のターレットパンチプレス

トシャッター」の全国発売。工場や倉庫、工事現場などの出入り口ならどこでも簡単に取り付けられ、開閉速度も抜群に速い画期的なアイデア商品。早くも各地から注文や問い合わせが舞い込んでおり、小松社長は「これを機会に商品のPRの仕方、販売方法、代理店契約についても勉強し、将来に備えたい」と張り切っている。

底ついた制御装置

同社は現在、一つの岐路に立っている。主力の配電盤や計装システムの県内でのシェアをこれ以上高めるのは困難。今後は日進月歩のエレクトロニクス機器とイかにタイアップさせた新商品を開発するかが大きな課題。小松社長が標準化商品の開発に力を入れているのも会社の知名度を向上させ優秀な人材を集めたいがため。同社が標準化商品の第二弾として現在、開発を進めているのは水道用の「エンジン自動起動システム」。小松社長は「これらの商品の販売が軌道に乗れば電機メーカーとしての基礎ができれば本社内にメカトロニクス研究所をつくりたい」と夢をくくらせている。

開発進む標準化商品

システムなど水道施設関係では県内で六〇%以上のシェアを誇る。小松昭夫社長は「水道用の各種制御機器は設置場所やパワー、その他の条件によって一件ずつ仕様が異なるので、小回りの効く中小企業の方がコスト面で断然有利。メンテナンスなどアフタービスを含

適用を申請、事実上倒産したことから。同社の中央研究所を辞めた小松社長は二年間、大阪の商社や電気工事設計事務所を商いのノウハウを学び帰省。四十八年に実弟の小松光雄常務と各種自動制御装

ピッキングセンターの相次ぐ開店で各種冷凍機制御盤の需要が急増したのをきっかけに、それまで外注に頼っていた制御盤や配電盤用の金庫ボックスを自社生産に切り替え、一貫製造システムを確立した

ことで、より高度な技術応用を可能にしたためである。同社の売上高の構成比は水道用計装システムが六〇%、残り四〇%が配電盤とその他の製品。制御装置関係一筋にやってきたのは、

県内の他社がほとんど手がけていない分野だから。小さな企業が生き残るにはスキマ商品に活路を求めろしかなかった」という小松社長。今後の経営戦略は「制御装置関係をベースに扱い、商品を増やし、注文生産偏重から標準品電機メーカーへの脱皮を図ること」。

その第一弾として打ち出したのが今年八月下旬の「自動開閉シー